

〔記入例〕 添付様式6-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式6-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	構成員	実施時期	担当部署
庁内横断組織による検討会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり推進課</li> <li>・情報公開室</li> <li>・企画課</li> <li>・財政課</li> </ul>	・〇年〇月～〇月にかけて、計〇回を実施	都市整備課(まちづくり交付金主管課)
学識経験者、住民を交えた会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記と同様の部署</li> <li>・〇〇大学〇〇教授</li> <li>・〇〇大学〇〇助教授</li> <li>・〇〇地区会長</li> <li>・〇〇会会長</li> </ul>	・〇年〇月〇日と、〇年〇月〇日の計2回を開催	都市整備課(まちづくり交付金主管課)

↑  
①

↑  
②

↑  
③

↑  
④

- ① 名称等……………「方法書（４）今後のまちづくり方策の作成」に基づき、検討体制の名称等を記入する。
- ② 構成員……………「方法書（４）今後のまちづくり方策の作成」に基づき、検討体制のメンバー構成を具体的に記入する。庁内職員及び住民の場合は所属・役職までを、また、学識経験者や専門家は所属・役職と氏名までを記入する。
- ③ 実施時期……………「方法書（４）今後のまちづくり方策の作成」に基づき、検討の時期、実施頻度、回数等を記入する。
- ④ 担当部署……………「方法書（４）今後のまちづくり方策の作成」に基づき、今後のまちづくり方策を検討するにあたり、主体となった担当部署名を記入する。

## 添付様式6-② まちの課題の変化

- ◆事業を実施したことにより、まちの課題がどのように変化したか等を確認する。さらに、事業の実施により新たな課題等が生じた場合は、あわせてその課題を確認する。

※事業の実施による「まちの課題の変化」を再確認し、前述の評価結果には表れていない事業の効果などがないか、改めて振り返ってみることが必要である。

## 添付様式6-③ 今後のまちづくり方策

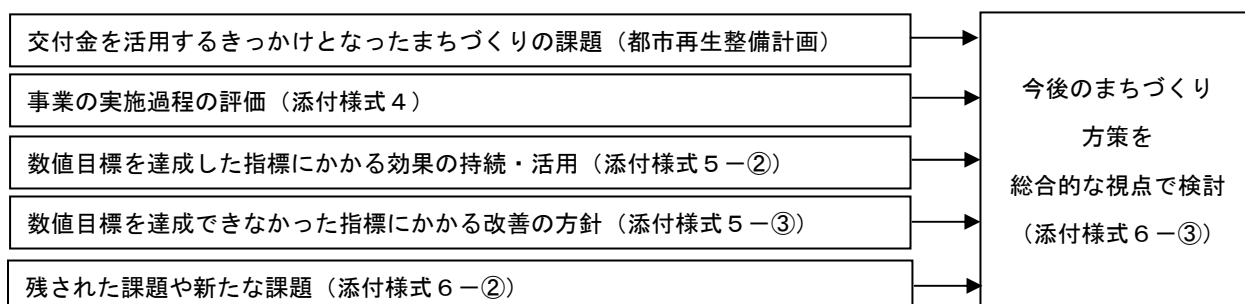
- ◆実施過程の検証、効果発現要因の整理と、まちの変化を踏まえ、今後必要なまちづくりの方針や想定される施策・事業等について検討する。

「今後のまちづくり方策」の作成にあたっては、庁内の横断的な組織や有識者による議論を通じ、地域事情や事業の特性等に関する十分な現状認識と綿密な要因整理のもと、ハード・ソフトの両面から具体的な実施事項（方針や施策等）を検討する必要がある。

- ◆「今後のまちづくり方策」については、交付金の効果を交付終了後も持続・活用するために何をなすべきか検討する視点のほかに、うまくいかなかった事業の改善の視点も含めて総合的に検討することが重要である。

### 【補足・留意事項】

- ・ 今後のまちづくり方針は、都市再生整備計画の整備方針に相当するもので、交付終了後も事業の効果を持続させために取り組むべきまちづくりの基本的な考え方を検討するものである。
- ・ また、PDCAのA(Act;改善)の意味で、達成できなかった目標の改善の視点も含めて検討する必要がある。ただし、数値目標を達成していない個別の指標の改善にかかる視点だけでなく、他の事業とも一体となって総合的に対応する方針になっているかどうか再確認すること。
- ・ そこで、これまで記入した添付様式（特に、添付様式4、添付様式5-②及び③に記入した総合所見や今後の活用/改善の方針等）の記述内容も顧みながら、それらと整合のとれた方針を検討すること。
- ・ さらに、交付金を活用するきっかけとなった、まちづくりの課題解決に対応する方針となっているかについても再確認すること。



〔記入例〕 添付様式6-②、③ まちの課題の変化、今後のまちづくり方策

添付様式6-② まちの課題の変化		
① 事業前の課題	② 達成されたこと	③ 事業後に残された課題
・住民参加によるまちづくり (計画、デザイン等)	・地域住民と意見交換しながら事業を進めたため、住民の考えを反映させた計画がスムーズに策定できた。	・ハード整備の要望が多い住民の意識改革を進めることが課題として残った(ソフト事業を重視)。
・安全・安心なまちづくりのためのハード整備	・〇〇交差点改良事業や歴史、風土、水ネットワーク事業等により、安全・安心なまちづくりのためのハードは整った。	・今後、安全・安心なまちづくりを進めていく上で、整備したハードをより活用するためのソフト事業の検討・実施が必要である。
④ 新たな課題		
・観光入込客数の増加数は目標値を上回ったが、それに伴い、駐車場不足が慢性化し、公衆トイレや休憩施設が足りないとの声が寄せられるようになった。		

添付様式6-③ 今後のまちづくり方策		
⑤ 項目	⑥ 基本的な考え方	⑦ 想定される事業
居住人口の更なる増加	・本事業の完成後には、隣接する〇〇地区の再開発事業に着手予定であるが、具体的な入居テナント等については今後の本格的な検討が必要 ・同地区を含め、引き続き再開発によって居住機能の再生を図るには、地価負担の一層の低減が避けられない課題	・入居テナント選定に向けた説明会 ・地域住民・地権者との話し合い ・低層住宅の賃貸促進
観光客の誘致強化	・〇〇周辺には案内や広告等があまり見られず、来訪者にとっては利用しにくい状況があるので、サイン整備等により早急に改善を図る ・駅から〇〇までは車で10分程度と遠い位置関係にあり、バスの利便性の向上などアクセスの改善が必要 ・観光客の増加に対する設備面・防災面での対応が必要	・〇〇周辺サイン整備事業 ・駅構内における情報提供サービスの充実 ・バス路線および時刻表の見直し ・トイレ・休憩施設・駐車場整備事業 ・〇駅防災機能向上事業
⑧ ⑥ とくに改善すべき項目については、別途右欄に必要な事業を記入することとする		⑧ ⑦ まちづくりの目標の達成に必要な事業 ・道路ネットワーク再構築事業 ・商業活性化計画の策定

- ① 事業前の課題……………都市再生整備計画(様式)の「都市再生整備計画の目標及び計画期間」／「目標設定の根拠」欄を参考に、事業の実施前の「まち」の課題を簡潔に記入する。
- ② 達成されたこと……………事業後に達成されたことを、事業前の課題と対比させて具体的に記入する。
- ③ 事業後に残された課題……………事業前の課題のうち、達成されずに残された課題を具体的に記入する。
- ④ 新たな課題……………事業の実施により新たな課題等が生じた場合は、その課題を具体的に記入する。
- ⑤ 項目……………これまで記入した添付様式(特に、添付様式4、添付様式5-②及び③、添付様式6-②)を顧みながら、今後のまちづくり方策の柱となる項目を設定する。
- ⑥ 基本的な考え方……………項目ごとに、今後のまちづくりを実行する上でのポイントとなる考え方や留意すべき視点、施策の方向性や展望等をまとめる。
- ⑦ 想定される事業……………想定される施策及び事業を箇条書き(複数可)で記入する。
- ⑧ まちづくりの目標の達成に必要な事業  
……………都市再生整備計画において設定した目標を達成することができなかったと判断された場合は、上記⑦の事業に加え、まちづくりの目標の達成に必要な事業を記入することを必須とする。

※まちづくり方策の記載内容の例

- ・事業実施後にも、まちづくりに対する地域の盛り上がりが続くよう、地域のNPO設立支援やまちづくり協議会等の立ち上げ、市内の担当部署設置の実施体制づくりを図る。
- ・目標を達成し、これを契機として、さらにまちづくりを進める。(周辺地区等での関連施設の整備、施設利用をさらに促進するためのイベント・組織体制整備など)
- ・目標は達成しているが、整備によって生じたマイナス面への対処を図る。(施設整備にともなう、交通量増による渋滞・環境面への対応など)

## 添付様式7 まちづくりの成果の他地区への活用

- ◆まちづくり交付金によるまちづくりの成果を、当該地区の今後のまちづくり、及び他地区等におけるまちづくりへも活用できているかどうかを確認する。

※事業によるまちづくりの成果としては、住民のまちづくりへの参加機運の高まり、また、それに伴う具体的な住民組織の設立、まちの経済の活性化、まちの交流人口の増加、住民参加手法の確立等が考えられる。

〔記入例〕 添付様式7 まちづくりの成果の他地区への活用

添付様式7 まちづくりの成果の他地区への活用

地区名	活用した内容
〇〇地区	本地区と隣接する〇〇地区において、まちづくりの機運が高まり、事業化に結びついた。
△△地区	本市の地域核の一つである△△地区のまちづくりにおいて、本地区で用いた住民の合意形成手法、ソフト事業の組み合わせなど、当地区での取り組みを参考に事業を立ち上げた。

↑  
①

↑  
②

- ① 地区名……………事業の成果が活かされた地区名を記入する。  
 特に活かされた地区がない場合には、地区名欄に「なし」と記入する。
- ② 活用した内容……………活かされた成果の内容と場所等を具体的に記入する。